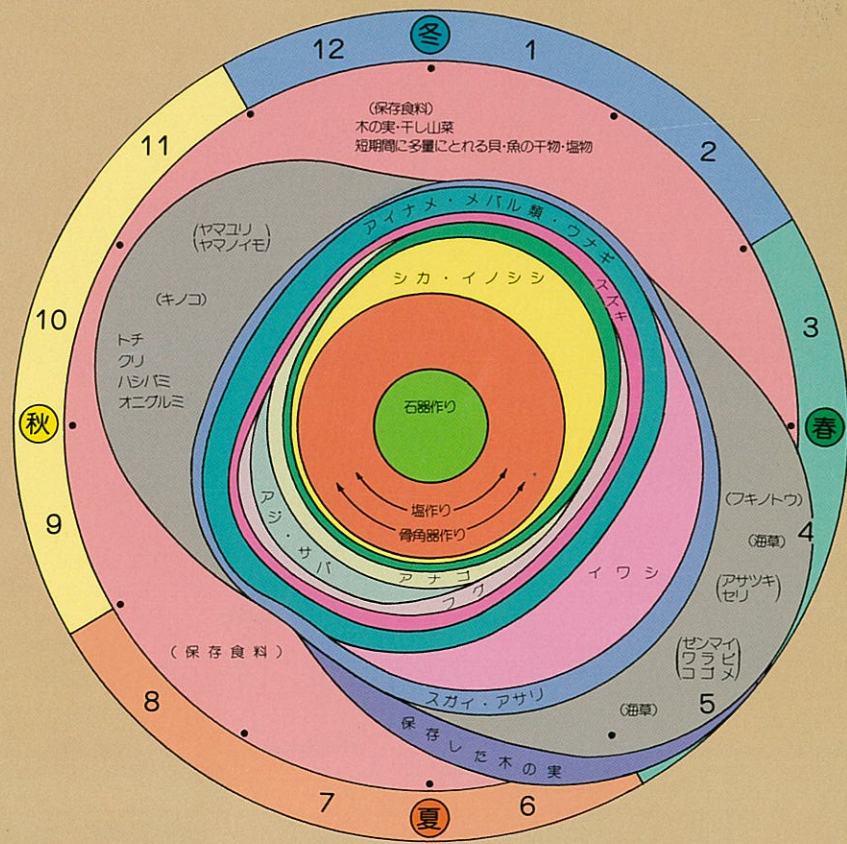
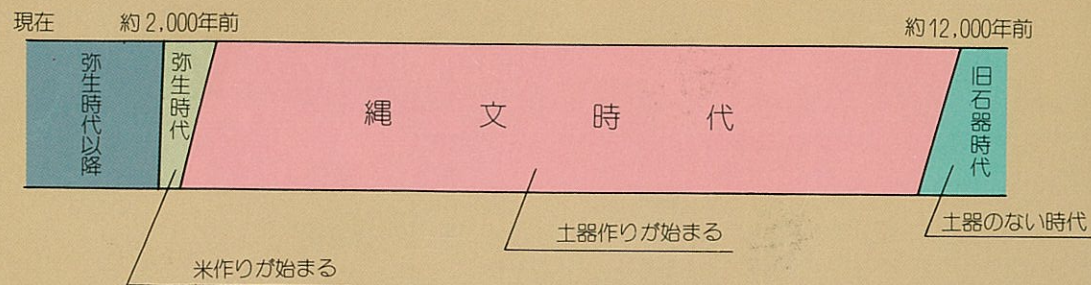


縄文人の四季 —縄文カレンダー—



*里浜貝塚 (宮城県鳴瀬町) の調査をもとに作成されたもの
(資料提供 岡村道雄)

年表



縄文

iyaman

自然に生きる縄文人



発行 仙台市教育委員会 文化財課
仙台市青葉区国分町三丁目7-1 022-261-1111

発行日 1992年10月31日
印刷 株式会社新精版印刷



じょうもん じ だい
縄文時代

今から約12,000年前頃になると、徐々に気候が温暖化し、それまで長く続いた氷河時代（旧石器時代）が終わりを告げました。この後、約2,300年前頃まで、およそ1万年間続いた時代を縄文時代といいます。この時代の大きな特長のひとつは土器作りがはじまったことですが、この土器に縄目の文様がほどこされることにちなんで「縄文時代」といわれるようになりました。

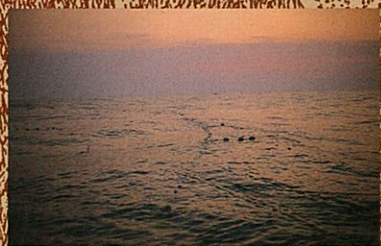
縄文時代の人々は森や野、川、海などの自然を舞台に、狩猟や採集の生活をしていたと考えられています。



● 生息のウサギ・イノシシ



● 各地川谷の伸びる魚

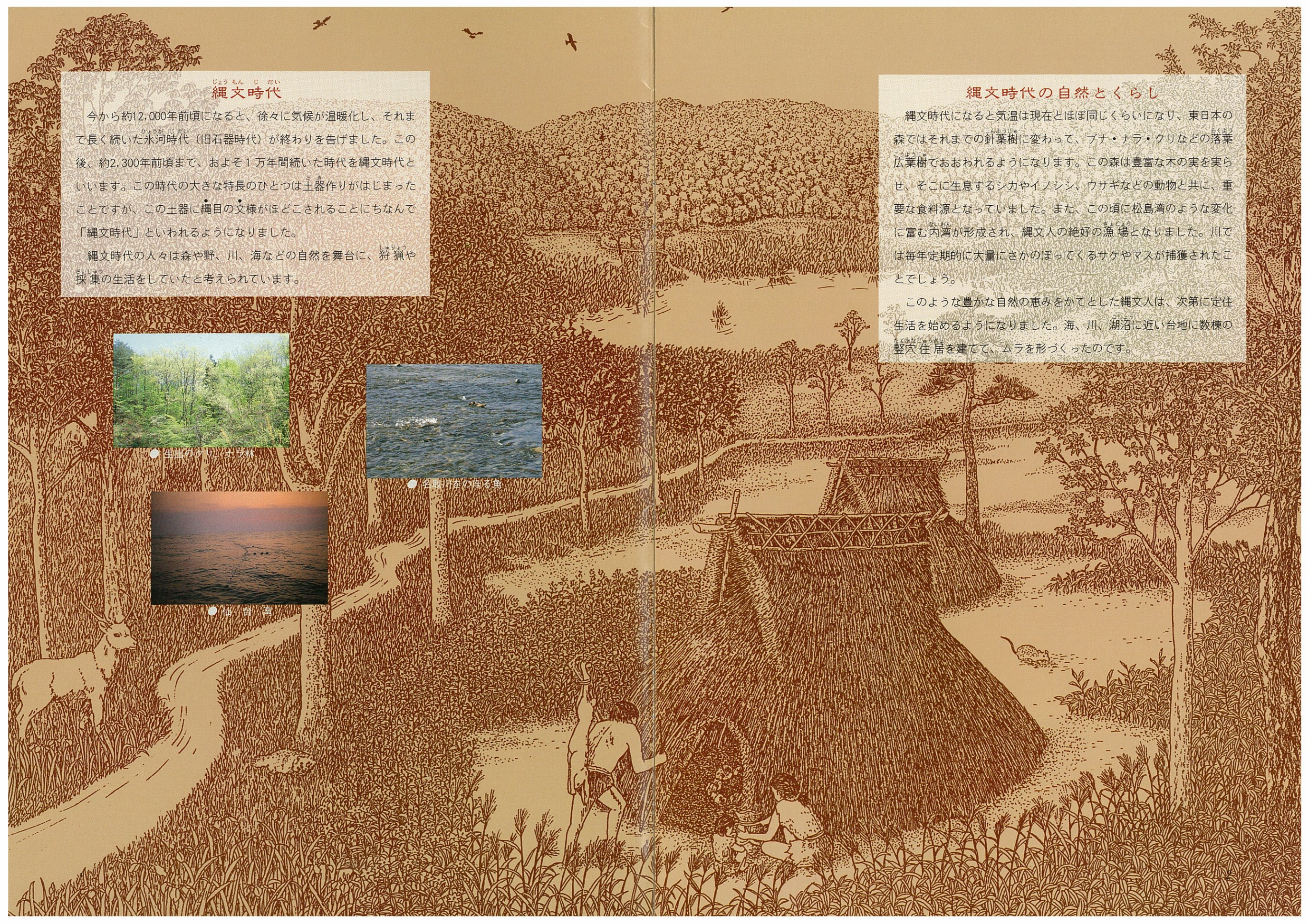


● 川谷 湾

縄文時代の自然と暮らし

縄文時代になると気温は現在とほぼ同じくらいになり、東日本の森ではそれまでの針葉樹に変わって、ブナ・ナラ・クリなどの落葉広葉樹でおおわれるようになります。この森は豊富な木の実を実らせ、そこに生息するシカやイノシシ、ウサギなどの動物と共に、重要な食料源となっていました。また、この頃に松島湾のような変化に富む内湾が形成され、縄文人の絶好の漁場となりました。川では毎年定期的に大量にさかのぼってくるサケやマスが捕獲されたことでしょう。

このような豊かな自然の恵みをかてとした縄文人は、次第に定住生活を始めるようになりました。海、川、湖沼に近い台地に数棟の竪穴住居を建てて、ムラを形づくったのです。



縄文人の道具

縄文時代の人々は、「自然」を素材にさまざまな道具をつくって暮らしていました。ここでは縄文人の道具を、仙台市内の遺跡から出土したものを中心にみていきます。

● 粘土でつくったもの

と
土 器



■ 山田上ノ台遺跡 ■ 山田上ノ台遺跡 ■ 山田上ノ台遺跡 ■ 下ノ内遺跡



■ 山田上ノ台遺跡 ■ 下ノ内遺跡 ■ 下ノ内浦遺跡 ■ 六反田遺跡



■ 下ノ内遺跡 ■ 下ノ内遺跡 ■ 山田上ノ台遺跡 ■ 下ノ内遺跡



■ 六反田遺跡 ■ 下ノ内遺跡 ■ 下ノ内遺跡 ■ 下ノ内遺跡



■ 山田上ノ台遺跡 ■ 山田上ノ台遺跡 ■ 下ノ内浦遺跡 ■ 上野遺跡



■ 上野遺跡 ■ 上野遺跡 ■ 六反田遺跡 ■ 下ノ内遺跡

と
土 製 品



■ 土偶-伊古田遺跡- ■ 土偶-伊古田遺跡- ■ 土偶-高柳遺跡-



■ 土笛-高柳遺跡- ■ パイプ状土製品-高柳遺跡- ■ 耳飾-下ノ内浦遺跡-

石器

● 石でつくったもの



■ さまざまな石器 - 下ノ内遺跡 -
 ■ 石斧 - 六反田遺跡 -
 ■ 凹石 - 六反田遺跡 -
 ■ 石皿と磨石 - 六反田遺跡 -

石製品



■ 耳飾 - 北原街道B遺跡 -
 ■ 岩偶 - 六反田遺跡 -
 ■ 石棒 - 芦見遺跡 -

● 鹿の骨でつくったもの

骨角器 (東北歴史資料館蔵)



■ 釣針
 ■ 鋸頭
 ■ ヤス状刺突具

仙台市の縄文時代遺跡



1. 山田上ノ台遺跡(太白区)
 2. 高柳遺跡(泉区)
 3. 竪穴住居跡-山田上ノ台遺跡-
 4. 竪穴住居跡-下ノ内遺跡(太白区)-
 5. 配石墓-下ノ内浦遺跡(太白区)-
 6. 土器のでている様子-高柳遺跡(泉区)-
 7. 土偶のでている様子-伊古田遺跡(太白区)-
 8. 石器のでている様子-野川遺跡(青葉区)-